

花と緑の情報をお届けします。

Green Sketch

グリーンスケッチ

春号
NO.19
2003

特集 ● 花と緑のまちづくり

私たちの暮らしと花と緑



花と緑のイベント情報3

第16回新潟県都市緑花フェア/第5回上越市みどりの日フェスティバル/2003Spring「かけはしの森」グリーン・フェスティバル他



植物に親しむ5


ペットボトルや卵パックを利用して植物を育てるアイデアをご紹介します。



にいがた春の散歩道7

県内の花菖蒲の見所をご紹介します。

●読者の広場 ●花と緑のお悩み相談室 ●緑花センター掲示板

 新潟県都市緑花センター

特集

私たちの暮らしと 花と緑



花と緑は、私たちの暮らしにさまざまな恵みを与えてくれます。
今回の特集では、まちの中の花と緑について考えてみたいと思います。

緑の効果



リフレッシュ効果 まちに潤いと安らぎをもたらす

緑の効果の中では、リフレッシュ効果が最も大きなものとして挙げられます。木々の香りをかぎ、新鮮な空気を吸い込むと、心身がリフレッシュします。これは樹木が香りのもとになるフィトンチッドと呼ばれる殺菌物質を発散しているからです。小さな緑地でも、緑は私たちに精神的な潤いと安らぎをもたらしてくれます。

まちを演出し、 美しい景観をつくる

緑は、地域の景観を形成する上で重要な要素であり、歴史・文化などを育んでいます。例えば、防風林として植えられた松林やまとまった緑の杜寺林などは、地域の景観を造り、道路に沿って植えられた街路樹は、生長して立派な並木となつて、その地域のシンボルとして訪れる人々を迎えてくれます。

生物の生息空間をつくる

多様な生物が生息するためにはまとまった緑が必要で

私たちは、緑の中で生息する生物と自然との関わりを通して、自然がいかに大切であるかを知ることが出来ます。自然に触れ合うことよって、自然を大切に考える方や自然環境に対する責任感を育んでいくこととなります。

快適な環境をつくる

樹木は空気中の二酸化炭素を吸収し、酸素を放出することで空気をきれいにしてくれます。葉の水分蒸発作用が夏の暑さをやわらげ適度な湿度を保ちます。また、緑は騒音をやわらげてくれます。樹木が枝や葉で騒音の音波を吸収する（高い音ほど良く吸収する）からです。

防火・防風効果により まちをまもる

緑は、火災・防風などの災害を防止、軽減してくれます。

緑道や公園は災害時に避難路や避難場所になり、公園の樹木は避難する人々を周りの火災から守ってくれます。

また、阪神淡路大震災などでは、街路樹が火災の延焼を防ぐ役割をしてくれました。



緑の魅力



木々は、季節の移り変わりとともに美しい自然景観を私たちにもたらし、潤いと憩いの場を与えてくれます。

春の桜にはじまり、新緑の若葉、秋の紅葉と私たちを楽しませてくれます。



な生息の場となっています。

また、人々が憩い、安らぐ場の公園は、桜の開花時に花見の人々で賑わい、お祭りなど地域の歴史・文化を育む場ともなっています。

花と緑のまちづくりは、広場や家庭の敷地に花を植え、街路並木、公園、学校、水辺の緑との連携によって、まちに広がりのある花と緑のネット

まちの花と緑



私たちの住んでいる街の中には、公園の緑がありません。ビルが立ち並んでいる中心市街地の公園は、まちの中の貴重な緑空間となっています。

道路やビルなどのアスファルトやコンクリートに囲まれた街の中で、公園の緑や水辺空間は、土や花・緑にふれあえる貴重な場として、私たち人間だけでなく鳥や昆虫など生物にとっても大切な



ワークが形成されます。

まちの中には、長い時間をかけて人々によって守り育てられてきた緑が多くあります。この緑を大切に守っていくと同時に、私たちの家庭でも新たに花や緑を増やし、よりよい環境をつくりましょう。

次号では、緑花の実践例をご紹介します。

植物に親しむに

3月14日から16日まで新潟市の産業振興センターで開催された「フワフワフェーン2003」に、緑花センターも独自の出展ブースにより参加しました。
ヒアシンスやスイセンなどの香りの植物を実めた芸術展示やハーブの利用法の紹介、そして身近にあるものを工夫して、植物を育てるアイデアについて展示しました。これらの展示で、来場者の方々から、大変好評をいただいた内容をここでご紹介いたします。

ペットボトルを

利用したミニプランターの種まき

●身近にある物を利用して、植物を育ててみよう！

ペットボトルや卵パックを利用して植物を育てるアイデアをご紹介します。

用意するものは、ペットボトル、卵パック、培養土、種（ラディッシュ・ルッコラ）、カッター、千枚通し、ビニールテープ、マジック、定規などです。

こんなのできたよ



千枚通しで、底に数ヶ所穴を開けます。穴が大きいと土が流れますのでご注意ください。

③水抜き用の穴を開ける



①ペットボトルの側面を切り取る

あらかじめマジックで切り取り線をつけておくと、目安になります。作業の際は、手を切らないよう注意して行いましょう。本体から切り取った方は、受け皿として利用します。



切り口は、手を傷つけることがあるので、ビニールテープで保護します。カラーテープを使うとカラフルになって楽しいですよ。

②切り口をビニールテープでまく



培養土を入れ、土の表面を平らにします。ラディッシュの種を播きます。種をまいたら土をかけ、手で土なじませます。発芽までは新聞紙で覆って、乾燥させないように気をつけます。（発芽温度は15～30℃です。）双葉が萌えたら、間引きを行います。週1回、液肥を与えます。間引いた後には株元に土を足してください。また、乾燥と多湿にも注意してください。土の表面をよく観察しながら水遣りを行きましょう。

④種をまく



⑤収穫

土から根をのぞかせたら収穫の適期です。



ペットボトル

を利用した底面給水式ミニプランターの種まき



①ペットボトルを半分に切り取る

ペットボトルを半分に切り取ります。キャップには、千枚通しで数箇所穴を開けておきます。



②種をまく



キャップをつけたまま、ひっくり返し、もう一方にさしこみます。そこに、培養土を入れ、土の表面を平らにします。深さ5mm程度のすじを入れて、種(ルッコラを使用)をまきます。すじの両わきの土をくずして薄く土をかけます。ペットボトルの底側にはキャップ部分がしっかり水に浸かるように水を入れておきます。

③その後の管理

ラティッシュと同じように管理しながら育てます。間引いた小さな葉はごまの味がしておいしいのでサラダなどにいれて食べます。収穫の際は、外葉からつみとれば長く収穫できます。



を

ペットボトルの おすすめ 活用法

●土入れ

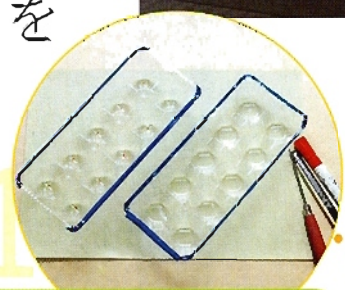
丸型のペットボトルをななめに切り取ると、プランターや鉢に土を入れる際の道具になります。

●じょうろ

ペットボトルのキャップに千枚通しで細かい穴を数箇所開けるだけで、簡単なじょうろに早変わり。小さなプランターに種まきした時、細かいシャワー状の水やりができます。プランターのすぐそばに水や液肥をいれておくと手軽で便利です。

卵パック

を利用した種まき



①卵パックを分け、穴を開ける

卵パックを2つに切り離します。切り離した2つを比べると高さが違うことがわかります。高い方に土を入れるため、水坂き用の穴を開けます。

穴を開けた方に土を入れ、もう一つのバックを下にして壁紙、受け皿として使用します。種をまきます。

②種をまく



③その後の管理

発芽して芽と芽が触れ合ってきたら、蓋が太くて短いほうを残して間引きます。本葉が3~4枚になったら、根を傷めないようにそっと取り出して、ほかの鉢に移植します。

※発芽後、置き場所は、日光の良く当たる窓辺においてください。